

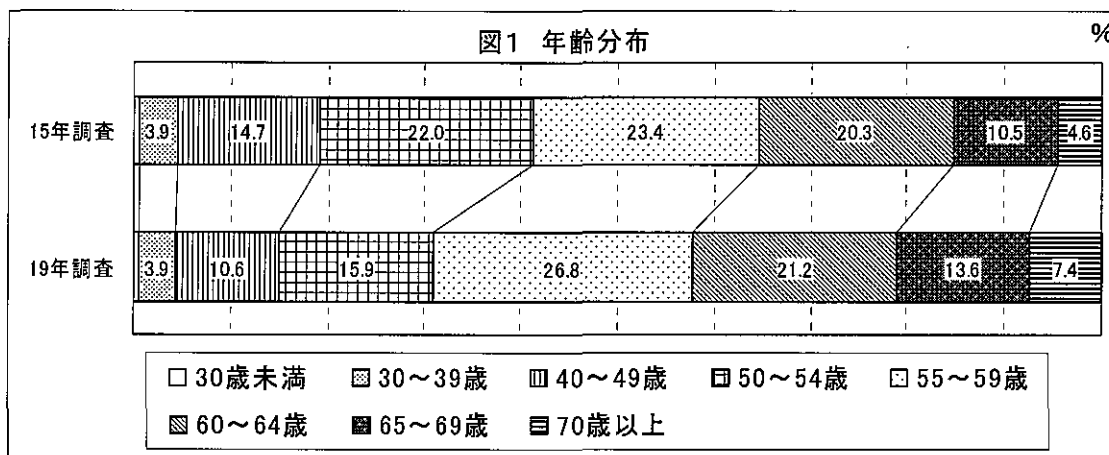
平成19年「ホームレスの実態に関する全国調査」の分析

国立社会保障・人口問題研究所

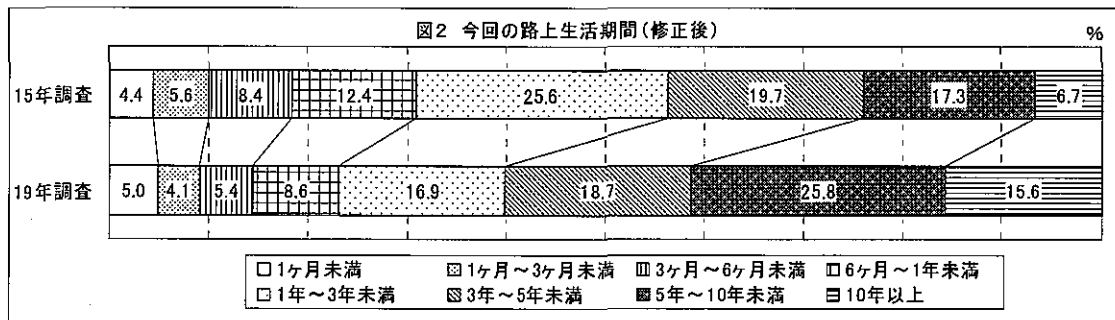
阿部 彩

1. 路上生活者の属性の変化 —前回（平成15年）調査との比較—

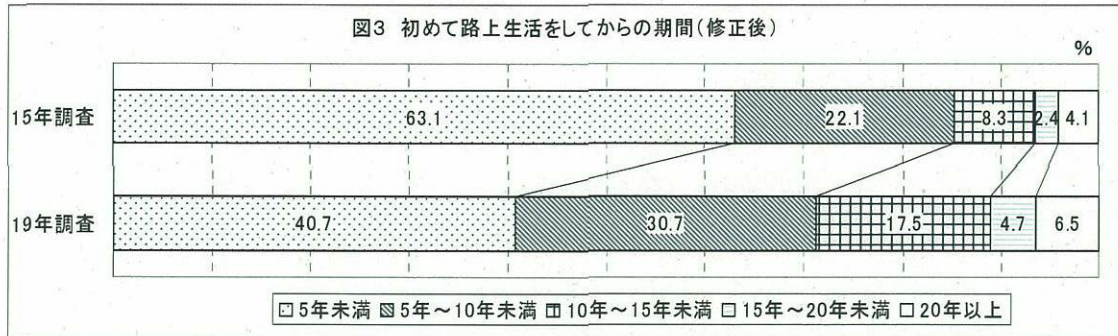
前回調査に比べ、路上生活者の属性は変化している。2つの大きな変化は、55歳以上の路上生活者の割合の増加と長期路上生活者（今回の路上生活期間が5年以上）の割合の増加である。年齢構造を前回調査と今回調査とで比較すると、平均年齢は57.5歳で前回より僅か1.6歳の上昇であるが、年齢分布をみると40～49歳、50～54歳が減っており、55歳以上（55～59歳、60～64歳、65～69歳、70歳～）が増えている（図1）。



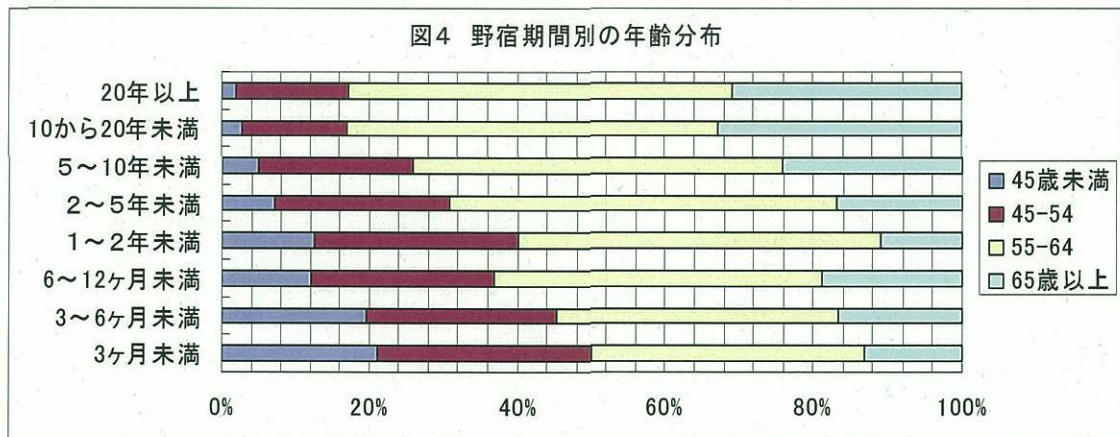
一方で、路上生活の長期化の傾向も著しい。前回調査に比べ、今回の調査対象者は、長期路上生活者の割合が多い。3年未満が大きく減っており、特に「1～3年未満」は約8ポイントの減少である。逆に増えているのが、「5～10年未満」（約8ポイント増）、超長期にわたる路上生活者「10年以上」も9ポイント増加している（図2）。前回調査に比べ、ここ3年間ほどの新規路上生活者が少なかったことがわかる（厳密に言うと、滞留した新規路上生活者である。新規路上生活者となって短期で路上生活を脱出した人が多かった可能性もある）。なお、前回調査以降の新規路上生活者（今回の路上生活4年未満）は50.8%と約半数である。



初めての路上生活からの期間においても、「5年未満」が大幅に減少、5年以上が増加している（22ポイント）（図3）。



路上生活者の年齢と、路上生活期間は関連があるため（図4）、この二つの傾向は同じ現象を表していると考えられる。つまり、高齢の路上生活者は路上生活期間も長く、彼らの相対的割合が増加したことにより、長期化と高齢化の両方が進んだといえる。



さらに、路上生活者全体の概数が減少していることから（概数調査より）、高齢・長期路上生活者の総数自体が増えたというよりも、それ以外の路上生活者が減少したと考えるほうが自然である。換言すると、①比較的若い（55歳未満）新規路上生活者が減少したこと、また、②比較的に路上生活期間が短く、若い層が自立支援センターなどを通して路上生活を脱却したこと（資料1によると、自立支援センター入所者の平均年齢は51.6歳であり、路上生活者の平均年齢57.5歳よりも低い）、によって減少したのに対し、路上生活期間が長く、高齢の層が路上生活に停滞したことによって、路上生活者の年齢層にいつそうの偏りが生じたと言える。

資料1：「平成18年度ホームレス対策事業の運営状況調査」

## 2. 自立支援センターの利用経験と利用希望

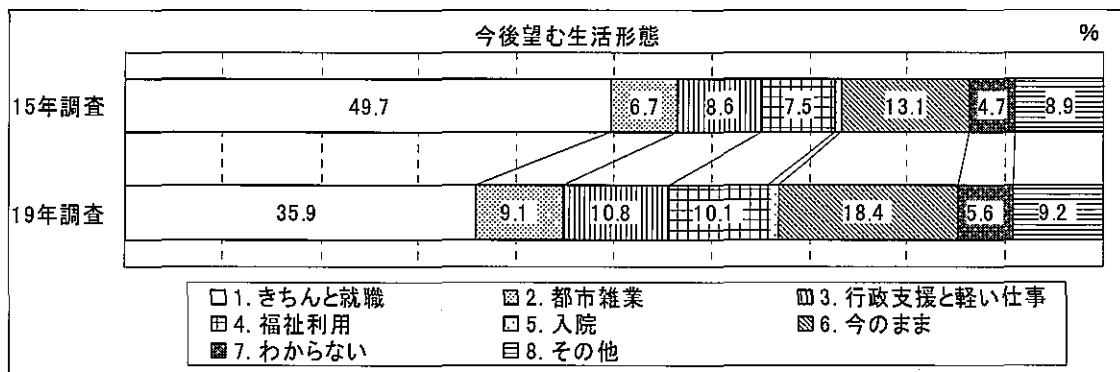
### (1) 自立支援センターの利用希望（と就職希望）の減少

今回の調査において自立支援センターの利用経験および今後の利用希望の内訳は以下である（表1）。

表1 自立支援センター利用状況（問26、問26-4）

	割合(%)	(参考) 前回	平均年齢
知っており、利用したことがある	9.1%		54.5
知っているが、利用したことはない	57.2%		57.2
（うち） 今後利用したいと思う	23.3%	38.6%	55.5
（うち） 今後利用したいと思わない	76.7%	60.6%	57.7
知らない	33.7%		58.8

利用経験者は、9.1%、知っているが利用したことがない人は57.2%と過半数を占めている。知っているが利用したことがない者のうち、今後の利用希望がある者は23.3%であり、路上生活者全体の半数弱（43.4%）が自立支援センターの存在を知っていながらも利用希望がない。この背景には、就職希望そのものが路上生活者の中で大きく減少していることが挙げられる（問29の今後望む生活形態で「きちんと就職」は49.7%から35.9%に減少）。これは、路上生活者の構成がより高齢の路上生活者に傾いたからのみによるものではない。年齢階層別の就職希望をみると、前回調査に比べて、すべての年齢階層で減少している（問29、グラフは男性サンプルのみ）。また、就労希望に関係すると考えられる収入についても、全収入階層で就職希望が減少している（問29 同上）。つまり、同じ年齢層、収入層においても就職希望そのものが減少している。



<sup>1</sup> 自立支援センターの経験者の割合、希望者の割合（問26）は、地域によって差がある（例えば、自立支援センター経験者の割合は東京23区では10%、大阪市では15%、その他では5%等 - クロス表Q26を参照のこと）。この差は各地域における施策実施の時期、他の施策の活用性（availability）、雇用状況などに起因すると思われる。